

現場打ちの鉄筋コンクリート構造物におけるスランプ値の設定等について

1. スランプ値の確認方法

契約後に受発注者間でスランプ値の確認を行う際には、「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン（以下、ガイドラインという）」（平成 29 年 3 月）に基づき、以下のとおりとすること。

- (1) 使用するコンクリートの単位水量，単位セメント量，水セメント比を配合計画書により確認する。※1
- (2) 使用するコンクリートの目標スランプが 12cm を超える場合には，(1)に加え、試し練りを行い、材料分離抵抗性を確認する。※2

※1 配合計画書により、表-解 3-1 を満足することを確認できれば適切な配合と判断してよい。詳細はガイドラインの「3. 施工時における品質確認上の留意点」を参考とすること。

表-解 3-1 配合計画書による確認事項

粗骨材の最大寸法	確認項目	基準値
20~25mm	単位水量	175kg/m <sup>3</sup> 以下（推奨値）
	単位セメント量	270kg/m <sup>3</sup> 以上（推奨値）
	水セメント比	55%以下
40mm	単位水量	165kg/m <sup>3</sup> 以下（推奨値）
	単位セメント量	250kg/m <sup>3</sup> 以上（推奨値）
	水セメント比	55%以下

※2 材料分離抵抗性の確認は，スランプ試験中の試料形状の観察とブリーディング試験による。詳細はガイドラインの「参考資料 3. 流動性を高めたコンクリートの分離抵抗性の確認方法（案）」を参考とすること。

## 2. 特記仕様書記載例

現場打ちの鉄筋コンクリート構造物やコンクリートの締固めを行いづらい環境の工事にあたっては、下記を参考に特記仕様書へ記載することとする。

### < 特記仕様書記載例 >

編	章	節	条	見出し	特記仕様書 記載例																																				
1	3	3	1-3-3-1	一般事項 (レディーミストコンクリート)	<p>レディーミストコンクリートの配合は下記のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>使用区分</th> <th>呼び強度</th> <th>粗骨材の最大寸法</th> <th>水セメント比</th> <th>セメントの種類</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>N/mm<sup>2</sup></td> <td>mm</td> <td>%以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>〇〇</td> <td>〇</td> <td>20~25</td> <td>〇</td> <td>普通 または高炉B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〇〇</td> <td>〇</td> <td>40</td> <td>〇</td> <td>普通 または高炉B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>参考スランブ ※注1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>cm</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <p>受注者はレディーミストコンクリートの配合(上記の表の内容に加えて、単位水量・単位セメント量を含む)を施工計画書に記載すること。</p> <p>※注1 本工事の特記仕様書、数量総括表及び図面に記載されたスランブは、積算上の参考値である。 現場打ちの鉄筋コンクリート構造物の施工にあたっては、「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン(平成29年3月)」を基本とし、構造物の種類、部材の種類と大きさ、鋼材の配筋条件、コンクリートの運搬、打込み、締固め等の作業条件を適切に考慮し、スランブ値を設定するものとする。契約後に受発注者間でスランブ値の確認を行い、施工条件等により、協議の上、スランブを指定することができる。 ただし、(1) 使用するコンクリートの単位水量、単位セメント量、水セメント比を配合計画書により確認する(2) 使用するコンクリートの目標スランブが12cmを超える場合には、(1)に加え、試し練りを行い材料分離抵抗性を確認すること。</p>	No	使用区分	呼び強度	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類	摘要			N/mm <sup>2</sup>	mm	%以下			1	〇〇	〇	20~25	〇	普通 または高炉B		2	〇〇	〇	40	〇	普通 または高炉B		No	参考スランブ ※注1		cm	1	△	2	△
No	使用区分	呼び強度	粗骨材の最大寸法	水セメント比	セメントの種類	摘要																																			
		N/mm <sup>2</sup>	mm	%以下																																					
1	〇〇	〇	20~25	〇	普通 または高炉B																																				
2	〇〇	〇	40	〇	普通 または高炉B																																				
No	参考スランブ ※注1																																								
	cm																																								
1	△																																								
2	△																																								

注1：

本工事の特記仕様書、数量総括表及び図面に記載されたスランブは、積算上の参考値である。

現場打ちの鉄筋コンクリート構造物の施工にあたっては、「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン(平成29年3月)」を基本とし、構造物の種類、部材の種類と大きさ、鋼材の配筋条件、コンクリートの運搬、打込み、締固め等の作業条件を適切に考慮し、スランブ値を設定するものとする。契約後に受発注者間でスランブ値の確認を行い、施工条件等により、協議の上、スランブを指定することができる。

ただし、(1) 使用するコンクリートの単位水量、単位セメント量、水セメント比を配合計画書により確認する(2) 使用するコンクリートの目標スランブが12cmを超える場合には、(1)に加え、試し練りを行い材料分離抵抗性を確認すること。